

平成28年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立久世中学校)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	・本校の喫緊の課題である学力向上の取組を、組織的に取り組む。 ・教員全員年1回以上の研究授業。	・全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムなどの結果。
	家庭学習の習慣化	・「久世三校版 家庭学習のてびきVer.2」の活用。 ・家庭学習ノートの充実。	・家庭で1時間以上学習すること。(学習塾・家庭教師などを含む) ・自分で計画を立てて家庭学習すること。
	読書の習慣化	・朝読書の充実。 ・地域図書館、家庭との連携。	・朝読書の時間に読書に集中すること。 ・学校の授業以外で読書をする。
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳教育の充実。 ・規範意識の育成。	・学校や社会のルールを守ること。 ・気持ちよくあいさつすること。
	自己有用感の育成	・ピア・サポートの推進。 ・ふれあいひろばの実施。 ・地域での奉仕活動。	・「わたしの学校生活」調べ(社会性変容調査)の結果。
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的な生活習慣の確立に向け、朝食の喫食、睡眠時間確保の啓発。	・毎日、朝ごはんを食べること。 ・7時間以上睡眠をとること。
	保健教育の充実	・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室の開催。
独自の項目	小中一貫教育の推進	・小中合同教科主任会、小中合同研修会(授業・教育課題)の充実。 ・学校運営協議会の充実。	・「わたしの学校生活」調べ(社会性変容調査)の主要項目の推移。 ・小中合同教科主任会、研修会の実施回数。



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年9月21日
	評価者・組織	学校評価支援委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「授業がわかりやすい」のニーズ度は高い。「分かるまで教えてくれる」の「当てはまる」の回答が全国比約10%は大きな課題である。「わからないまま」の状態を改善する必要がある。	「分かるまで教えてくれる」の「当てはまる」の回答が全国比約10%は大きな課題である。「わからないまま」の状態を改善する必要がある。 週末課題、家庭学習ノート等の家庭学習のための手立ては、アンケート結果に表れるほどの変容をもたらしていない。	・授業研究を核にして、学力向上を目指した授業改善を引き続き組織的に取り組む。
「家庭で1時間以上学習する」の実現度は、特に低い。全国調査でも学習時間に関係する項目は全国平均を下回る。	「家庭で1時間以上学習する」の実現度は、特に低い。全国調査でも学習時間に関係する項目は全国平均を下回る。 図書館教育係から、読書ノートの活用と、授業での図書館活用の提案があった。今後の成果を経過観察。	・家庭学習の重要性の啓発を進め、「家庭学習のてびき」を有効に活用できる取組を徹底する。
学校評価アンケート「朝読書」は、特に高ポイント。全国調査において、「授業以外での読書」は全国を下回る。学校外での読書はできていない。	「朝読書」は、特に高ポイント。全国調査において、「授業以外での読書」は全国を下回る。学校外での読書はできていない。	・読書ノートの活用と文化委員会による啓発活動を進めながら、効果的な取組を提案する。
「相手の気持ちを考えて行動する」の重要度が高い。	・道徳教育を通して、地域に対する愛情を持つことができている。学校や地域でのルールを守ろうとする規範意識が高まってきた。	・現在の状況に満足することなく、子どもたちに対して絶えず積極的なアプローチを試みる。
「将来の夢や目標を持つこと」、「自分の思いや考えをわかりやすく伝えよう」とすることの重要度が高い。	・班活動、行事等を通して、クラスのまとまりができてきた。クラス、学年での自分の役割等を考え、自主的に行動できることが出来るようになった。	・学校行事などにおいて、目標を明確にし、生徒が主体的に取り組む、達成感をもてる仕組みを徹底してはどうか。
朝食の喫食率は約90%の生徒ができています。定時に起床している生徒は約90%、就寝している生徒は約75%	・朝食の喫食率は引き続き高く、睡眠時間も昨年度より増加している。	・生徒への働きかけとともに、朝食の喫食内容など保護者への啓発を進めていく。
防煙(6月)、非行防止(7月)、SNS(7月)など各種教室の実施。薬物乱用防止教室は、11月開催予定。	・生徒の発達段階に合わせた各種教室などは定着してきている。	・生涯にわたっての行動に結びつくよう教科、道徳などでの関連した指導を推進する。
・小中合同研修会を春季休業中・夏季休業中と2回実施した。 ・小中合同教科主任会を2回開催した。	・小中一貫教育の意義や今後の取り組みに向けての方向性が共有できた。	・小中一貫教育をさらに推進し、定着させるために、教員間の思いや生徒への関わり方を、学年・学校で共有しながら進めていく。



学校関係者評価	
評価日	平成28年10月17日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・これまでの取組で学力向上の兆しは出てきているが、効果が表れていない取組の分析を徹底してはどうか。	・公開授業参観など学力向上に向け別の視点からの支援を検討していく。
・家庭学習時間だけでなく、家庭での過ごし方など、多方面からの啓発も有効ではないか。	・成果が出ている取組を保護者に周知するなど、家庭学習の重要性を広報する取組を模索したい。
・家庭での過ごし方を含め読書の習慣化に向けた他分野からの具体的なアプローチをしてはどうか。	・公共の図書館との連携をさらに深めるなど、読書活動推進の支援を続ける。
・礼儀正しく気持ちよく元気にあいさつする子どもが増えつつあるなど、規範意識の高まりを感じる。	・ボランティア活動に子どもたちが気軽に参加できる体制を整えるなど地域の役割を考察する。
・自己有用感を育成する形態はできているが、子どもたちが成就感、達成感をもてる仕組みを徹底してはどうか。	・自己有用感を育成する「お膳立て」は整ってきた。意義、目的の共通理解の浸透を支援したい。
・落ち着いた学校生活が見られるなどこれまでの取組の成果が感じられる。	・健康の保持増進や望ましい生活習慣などを実感できる指導をさらに充実させたい。
・これまでどおり子どもたちの関心が高まり、正しい知識を獲得し行動できる教材、指導を推進してほしい。	・学校運営協議会の理事会として、保護者啓発の講演会、学習会を企画するなど地域とともに支援していく。
・久世三校の取組を理解、支援する保護者、地域の方が増えてきた実感がある。	・小中連携をベースにした小中一貫教育の推進を支援する方策を模索する。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	・本校の喫緊の課題である学力向上の取組を、組織的に取り組む。 ・教員全員年1回以上の研究授業。	・全国学力・学習状況調査、学習確認プログラムなどの結果。
	家庭学習の習慣化	・「久世三校版 家庭学習のてびきVer.2」の活用。 ・家庭学習ノートの充実。	・家庭で1時間以上学習すること。(学習塾・家庭教師などを含む) ・自分で計画を立てて家庭学習すること。
	読書の習慣化	・朝読書の充実。 ・地域図書館、家庭との連携。	・朝読書の時間に読書に集中すること。 ・学校の授業以外で読書をする。
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・道徳教育の充実。 ・規範意識の育成。	・学校や社会のルールを守ること。 ・気持ちよくあいさつすること。
	自己有用感の育成	・ピア・サポートの推進。 ・ふれあいひろばの実施。 ・地域での奉仕活動。	・「わたしの学校生活」調べ(社会性変容調査)の結果。
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の確立に向け、朝食の喫食、睡眠時間確保の啓発。	・毎日、朝ごはんを食べること。 ・7時間以上睡眠をとること。
	保健教育の充実	・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室の開催。
独自の項目	小中一貫教育の推進	・小中合同教科主任会、小中合同研修会(授業・教育課題)の充実。 ・学校運営協議会の充実。	・「わたしの学校生活」調べ(社会性変容調査)の主要項目の推移。 ・小中合同教科主任会、研修会の実施回数。



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月8日
	評価者・組織	学校評価支援委員会
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「授業がわかりやすい」のニーズ度は引き続き高い。「最初の目標の提示と最後の振り返り活動」の実現度が概ね向上。	授業の仕方について、「目標—振り返り」という展開の統一性が見られるようになってきた成果と推測される。	今年度は全教員が研究授業を実施することができた。来年度も組織的に授業改善に取り組んでいく。
「家庭で1時間以上学習する」の実現度は、引き続き低い。	家庭学習のための手立ての内容が、「家庭で1時間以上学習する」ことにふさわしいものか、検討の余地がある。	家庭学習定着に向け、週末課題などの質と量の考察を進める。
学校評価アンケート「朝読書」の実現度は引き続き高く、かつ向上。学校外の読書の実現度も向上。	昼休みの図書室の利用の様子が、以前より活発になっているように感じる。	意欲的に朝読書に取り組む姿が増えてきた。読書ノートの効果的な活用を継続する。
「学校や社会のルールを守ること」のニーズ度は引き続き高く、実現度も少しではあるが上昇している。	道徳教育を充実させることで、ルールを守ることの大切さをより高く意識づけられた。	落ち着いた学校生活が送れている生徒が増加している。道徳の教科化に向けた準備も並行して進めていく。
2、3年生の自己有用感はずかではあるが上昇しているが、1年生は少しながら下落している。	学校行事や部活動で新チームになることを通して、2、3年生が中心となることで責任感と達成感を感じられるようになった。	社会性変容調査などの分析を徹底して、成果と課題を全教職員で共通理解をすすめていく。
朝食の喫食は約90%の生徒ができています。7時間以上睡眠をとっている生徒は約70%。	・朝食の喫食率は引き続き高く、睡眠時間も3年生以外は7月より増加している。	家庭学習の定着を視野に入れた基本的生活習慣の確立に向けた啓発を進める。
防煙(6月)、非行防止(7月)、SNS(7月)など各種教室、薬物乱用防止教室(11月)の実施した。	・生徒の発達段階に合わせた各種教室などは定着してきている。	自由時間の使い方、スマートフォン依存など子どもたちの実態に即した取組を模索する。
・小中合同研修会を春季休業中・夏季休業中と2回実施した。 ・小中合同授業研究会を開催した。	・「小中一貫教育構想図」が完成し、共通理解を図った。	小小連携を基盤とした小中一貫教育推進のシステム化を引き続き進める。



学校名(京都市立久世中学校)

学校関係者評価	
評価日	平成29年2月28日
評価者 (いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・成果が表れている教科、学年の取組を全教職員で共有することを徹底してはどうか。	・学習支援推進委員会と学力向上を念頭にどのような支援が有効なのか検討していく。
・子どもたちが主体的に取り組め、充実感が持てる家庭学習課題をバランスよく課してほしい。	・家庭学習が定着している学校を広報するなど成果が出ている取組を保護者に周知する。
・読書の習慣化に向け、公共の図書館との具体的な連携を模索してほしい。	・図書支援推進委員会と連携しながら、読書活動推進の支援を続ける。
・規範意識が育成されつつあるが、どんな取組が有効だったのかしっかり検証してほしい。	・道徳の公開授業参加など規範意識の育成に向け、地域の役割を模索していきたい。
・これまでの取組を継続して、久世三校でピア・サポートを推進してほしい。	・「ふれあいひろば」など保護者や地域の方の共通理解がさらに深まっている。
・基本的生活習慣の確立に向け、校区の保育園、小学校、PTAと連携した取組を推進してほしい。	・自然や人との関わりの中で、命の大切さを実感できる取組を支援していく。
・薬物乱用防止、非行防止、防煙、SNSなど各種教室に保護者の参加を促してはどうか。	・保護者対象の啓発、講演会、学習会を企画するなど地域とともに支援していきたい。
・久世三校の小中一貫教育推進に対して、理解、支援する保護者や地域の方が増えてきた実感がある。	・学校運営協議会としても小小連携をベースにした小中一貫教育の推進をしっかり支援していきたい。

3 総括・次年度の課題

- 久世三校における小小連携を基盤とした小中一貫教育の推進に大きな理解をいただいたように思う。今後も、久世の子どもたちの学びと育ちのためにしっかり連携して取り組んでいきたい。
- 学力向上に向けた取組は、学力向上の兆しが見えるが、もう一つ伸ばし切れていない感がある。わかりやすい授業を目指して、有効な取組を全教職員で徹底するなど組織的な授業改善を推進していく。
- 自己肯定感を高めるため行っているピア・サポートによるさまざまな活動の意義を全教職員で再確認して、システムとして機能する方法を模索する。
- 学校支援推進委員会が動きつつある。来年度中にそのシステム化の基盤を整備したい。